合格おめでとうございます。
国際文化学科一同、皆さんとお会いできる日を今からとても楽しみにしています。
国際文化学科では、海外・国内で多様な異文化を実際に体験しながら、自分の「限界」をも超える「越境力」を養います。新たな出会いに、どうぞご期待ください。
皆さんが国際文化学科で実り豊かな大学生活を送り、広い世界へ羽ばたいていかれることを、心から願っています。

国際文化学科に合格された皆さんへ専任教員からのメッセージ
～授業で大切にしていること～

N.M.アディソン教授（イギリス文学、イギリス文化）
担当科目《原典講読：イギリスの物語文化》《原典講読：イギリスのフェミニズム》《留学準備演習（英語）》《SAP オックスフォード（英国）》《実践プログラム（海外 a カナダ：ナイアガラ・プログラム）》《実践プログラム（海外 b）》等
私のクラスでは、英国文化について英語と日本語で学びます。コースには、イギリス文化における女性とフェミニズム、英国の物語（映画と文学）と英国の芸術と音楽が含まれます。興味のある英国のトピックを選択して勉強することができます。

伊藤由希子准教授（倫理学、日本思想史）
担当科目《倫理学》《日本思想史》《SAP シドニー（オーストラリア）》《実践プログラム（国内）》等
学生のみなさんにとって身近な話題や材料をきっかけに、学問レベルまでしっかり思想を深めてもらえるようにお手伝いすることで、みなさんの学問・研究の伴走者になれればと思っています。

奥波一秀教授（音楽文化史、ドイツ文化史、比較文化思想）
担当科目《音楽と社会》《ドイツ語圏の文化》《SAP 韓国》《実践プログラム（国内）》等
講義科目では、音楽やドイツ語圏をテーマに、文化について考える面白さをお伝えしたいと考えています。SAP や実践プログラムにおいては、みなさん自身の問題関心が明確化するように、お手伝いをします。

木村覚教授　（美学、ダンス研究）
担当科目《美学》《身体メディア論》《SAP 台湾》《実践プログラム（国内）》等
大学での学びは、「他者」を知るレッスンです。自分とは意見の相入れない見解を受け止めたり、謎めいた表現を行う表現者の思いを汲み取ったりすることです。体験や実践を通して、自分を拡張し深めていきましょう。

河本真理教授（西洋美術史、現代芸術論）
担当科目《西洋近現代美術史》《現代芸術論》《比較芸術》《SAP ボストン（米国）》《実践プログラム（海外 a アメリカ：都市文化研究プログラム）》《実践プログラム（国内）》等
授業では、西洋美術史、とりわけ近現代美術の多様なあり方に触れ、その意味や背景をジェンダーを含めた様々な視点から学ぶことで、「新しいものの見方」を発見し、さらに問いを深めていくよう心がけています。SAP ボストン(米国)や実践プログラム（海外 a アメリカ：都市文化研究）では、海外での美術体験をサポートし、実践プログラム（国内）では、国際芸術祭・展覧会・美術館等の見学実習を通して、アートの社会における役割などについて考察します。

坂井妙子教授（イギリス文化史、ファッション史）
担当科目《イギリス社会とファッション》《世紀末文化論》《SAP オックスフォード（英国）》《実践プログラム（国内）》等
近現代のイギリス文化史を扱っていますが、個々の事例と解釈を通して、「歴史を見る目」を養うことを心がけています。実践プログラム：「西洋ファッション研究」では、学問としてファッションを研究するために必要な知識を学ぶとともに、現存資料を博物館、美術館で閲覧、調査します。

佐々木雄大講師（西洋哲学・倫理学）
担当科目《西洋哲学史》《哲学の基礎》《現代哲学》《SAP 南仏・パリ（フランス）》《実践プログラム（国内）》等
授業や実践プログラム「哲学カフェ」を通じて、哲学や倫理学の基本的な考え方を理解し、それらを単なる知識として覚えるのではなく、自分なりに世界を把握する視点をもち、〈いま・ここ〉にしばられない世界のあり方を構想するための方法として用いることができるようになることを目標としています。

杉山直子教授（アメリカ文学、アメリカ文化）
担当科目《アメリカ文学》《アメリカの人種・エスニシティ・ジェンダー》《SAP シドニー（オーストラリア）》《実践プログラム（海外 b）》等
自分の主な研究対象は少数民族の女性による文学やアメリカ合衆国の人種観ですが、皆さんがそれぞれ自分の関心をさまざまな方向へ広げたりじっくり深めたりするための入り口の一つとしての役割を果たせる授業を行なっていきたいと思います。

高井奈緒准教授（フランス文学、フランス文化）
担当科目《フランス文化論》《フランス文学》《フランス文学と文化》《SAP 南仏・パリ（フランス）》《実践プログラム（海外 a フランス：西カトリック大学プログラム）》《実践プログラム（海外 b）》等
「おしゃれ」「かっこいい」などステレオタイプのイメージから抜け出て、様々な角度からより深くフランスを知ることで、学生の皆さんが複眼的に物事をとらえ、柔軟かつ論理的に考えることが出来るようになるよう心がけています。フランス留学に少しでも興味のある学生は、積極的に声をかけてください。

田中有美教授（日米比較文学・文化）
担当科目《アメリカ文化論》《アメリカ文化研究》《比較文学》《留学準備演習（英語）》《SAP ボストン（米国）》《実践プログラム（海外 a アメリカ：都市文化研究プログラム）》《実践プログラム（海外 a カナダ：ナイアガラ・プログラム）》《実践プログラム（海外 b）》等
自分とは異なる考え方をする人や自分が知らない事に関心を持ち、誠実に向き合う姿勢を大切にしたいと思っています。そういった姿勢を、日本文化とアメリカ文化の関係や翻訳の問題を考察しながら身につけていけるような授業を目指しています。

中西裕二教授（民俗学、文化人類学、宗教研究、観光研究）
担当科目《日本観光文化論》《日本民俗文化論》《SAP フエ・ハノイ（ベトナム）》《実践プログラム（国内）》等
文化に関する知識をつけ文化の現場に行くと、そこは今までとは違った世界に映るはずです。面白いですよ。そんな経験を是非国際文化学科で体験して下さい。

朴倍暎教授（韓国・東洋哲学、日韓比較思想、韓国文化論）
担当科目《現代韓国社会と政治》《東洋思想史》《SAP 韓国》《実践プログラム（海外 b）》等
まず、韓国の社会や文化を論ずる授業では、韓国に関する様々な言説を論理的に分析していく訓練を行っています。そして東洋思想関連の授業では、東洋の思想が大切にしてきたものは何かについて考察します。一方、SAP 韓国においては、最も近い国との交流を通じて、「越境」について考える機会を提供します。

水野僚子准教授（日本・東洋美術史、表象文化論）
担当科目《アート・アクティヴィズム》《日本中世絵画史特論》《SAP ボストン(米国)》《実践プログラム（海外 a アメリカ：都市文化研究プログラム)》《実践プログラム（国内)》等
多くの文化や価値観が交錯する社会の中で、自分の「ものの見方」を深く考えることは重要です。
美術や多様なビジュアルイメージの分析を通して、そこに隠されたジェンダー・階級・民族等の問題を、クリティカルに考察することを目指しています。授業では、アートが実際に社会や人々の思想や価値観形成といかに関わっているのか、具体的なイメージの分析を通して一緒に考えます。また実践プログラム（国内）では、主に国内の名所旧跡や美術館、芸術祭等のフィールドワークを行い、鑑賞とディスカッションという実践を通して、美術を含む「ものの見方」を深く学びたいと思っています。

三田明弘教授（説話文学、日中比較文学）
担当科目《現代アジア文化論》《中国古典文化論》《SAP 台湾》《実践プログラム（海外 a 中国：河南師範大学プログラム)》《実践プログラム（海外 b)》《実践プログラム（国内)》等
現代に通じる人間の普遍的問題が提起され、考察されているからこそ今日まで伝えられた古典の魅力が理解できる授業を目指しています。

深田麻里亜助教（西洋美術史、イタリア美術史）
担当科目《西洋美術史概説》《西洋美術史特論》
さまざまな美術作品をとりあげ、作品が制作された時代や地域、成立背景、関連する思想など、作品をとりまく多彩な側面について幅広く紹介することを心掛けています。授業で扱う作品だけでなく、身近なイメージや事象についても考えていくきっかけを提供できればと考えています。

中村玲助教（日本近世絵画史、日本美術史）
担当科目《日本美術史概説》《日本美術史特論》
日本美術の面白さを紹介し、それまで以上に親しみをもってもらえるような授業を心がけています。実物を自分の目でじっくりと見ること、作品が生まれたさまざまな背景を考えることの大切さも伝えていきたいです。